**平成30年度　L2-Techに関する設備・機器等の提案**

**【様式1】　CO2削減タイプのチェックリスト**

|  |  |
| --- | --- |
| 設備・機器等の名称 |  |
|

**CO2排出要因において、比較対象の設備・機器等に対してCO2削減効果に優れる点について該当するものにチェックを入れて理由をご説明下さい（複数回答可）**

**①　期待効用の変容の誘導**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

-

**②　効用に対する提供サービスの局所化**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**給湯の場合**）従来の給湯設備と比較し、利便性や効用を維持しつつ給湯需要に合わせて熱の供給をコントロールすることによってCO2排出削減ができる機能を保有している給湯設備

（**空調の場合**）従来の空調設備と比較し、利便性や効用を維持しつつ空調需要に合わせて熱の供給をコントロールすることによってCO2排出削減ができる機能を保有している空調設備

（**照明の場合**）従来の照明設備と比較し、作業をする際（必要な時だけ）に、作業場所（必要な場所だけ）に作業ができる照度の（必要な量だけ）を確保しながらも、その他の空間は最低限の照度とすることによってCO2排出削減ができる機能を保有している照明設備

**③　効用に対する提供サービスの組み合わせの最適化**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**空調の場合**）従来の空調設備と比較し、利便性や効用を維持しつつ、最小のエネルギーで快適さを得られるよう複数の指標を最適に調整できるよう機器を組み合わせてCO2排出削減を実現することができる設計された空調設備

**④　効用に対する提供サービスのロスの最小化**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**給湯の場合**）従来の給湯設備と比較し、利便性や効用を維持しつつ貯湯タンク等の断熱性を高めたことによってCO2排出削減を実現することができている給湯設備

（**照明の場合**）従来の照明設備と比較し、反射率の高い壁材を使用するなどにより利便性や効用を維持しつつ消費エネルギーを低減しCO2排出削減を実現することができている照明設備

**⑤　未利用サービスの利用**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**給湯の場合**）排熱や地中熱等の未利用熱を熱源として利用することによって給湯の際に必要なエネルギー消費量を削減しCO2排出削減を実現することができている給湯設備

（**空調の場合**）排熱や地中熱等の未利用熱を熱源として利用することによって空調の際に必要なエネルギー消費量を削減しCO2排出削減を実現することができている空調設備

（**照明の場合**）採光など未利用のサービスを利用することによって照明に必要なエネルギー消費量を削減しCO2排出削減を実現することができている照明設備

**⑥　単体性能向上によるエネルギー効率化**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**給湯の場合**）従来の給湯設備と比較し、COPが高い給湯設備

（**空調の場合**）従来の空調設備と比較し、APFが高い給湯設備

（**照明の場合**）従来の照明設備と比較し、照明効率（lm/W）が高い照明設備

**⑦　低炭素エネルギーの利用**

|  |
| --- |
| (理由) |

【参考例】

（**給湯の場合**）従来の給湯設備と比較し、給湯の際に使用するエネルギー種を変えることによってCO2排出削減を実現することができる給湯設備

（**空調の場合**）従来の空調設備と比較し、空調の際に使用するエネルギー種を変えることによってCO2排出削減を実現することができる空調設備